

こども家庭庁における自殺対策の取組について

令和 7 年 1 月 31 日

第 8 回 こどもの自殺対策に関する関係省庁連絡会議

1 事業の目的

- 小中高生の自殺者数は、近年増加傾向が続き、令和4年では、514人と令和2年の499人を超え過去最多となっており、こどもの自殺対策に関し、関係省庁の知見を結集し、総合的な施策を推進するために、令和5年4月より「**こどもの自殺対策に関する関係省庁連絡会議**」（議長：こども政策担当大臣）を開催。
- 関係省庁連絡会議においては、有識者・当事者からのヒアリングを実施した上、令和5年6月には、こどもの自殺対策の強化に関する施策を「**こどもの自殺対策緊急強化プラン**」として、とりまとめを行った。
- こうしたことを踏まえ、こども家庭庁としても、こどもの自殺の要因分析のため、自殺に関する情報の集約・分析に関する調査研究に取り組むほか、自殺予防や自殺対策に関する広報啓発を積極的に実施していく。

2 事業の概要

1. 調査研究（0.2 億円（こども政策推進事業費補助金））

- 警察や消防、学校や教育委員会、地方自治体等が保有する自殺統計及びその関連資料を集約し、多角的な分析を行うための調査研究を実施する。

※ 令和5年度から情報の集約・分析を開始しており、その際に得られた知見・課題等を踏まえ、令和6年度も継続して、多角的な分析等を行う。

2. 広報啓発活動（0.4 億円（こども政策推進事業費委託費））

- 中学生や高校生をターゲットにした、自殺予防・自殺対策に関する情報発信を行うための広報啓発活動を実施する。

3 実施主体等

【実施主体】 民間団体

【補助割合】 定額（国：10/10相当）

こどもの自殺対策の推進に資する広報啓発活動

- 令和5年6月に取りまとめた「こどもの自殺対策緊急強化プラン」に基づき、こども・若者に届くような広報啓発活動を実施・検証し、今後のこどもの自殺対策について、こども家庭庁が取り組むべき広報啓発の方針を検討。
- こどもの自殺対策等に関わる幅広い関係者からなる有識者検討会を設置し、広報啓発活動の企画段階から、助言を得て実施。

実施事業者：アクセンチュア株式会社

有識者検討会委員

- **NPO法人 あなたのいばしょ**
理事長 根岸督和氏
- **NPO法人 OVA**
代表理事 伊藤次郎氏
- **NPO法人 Light Ring.**
代表理事 石井綾華氏
- **NPO法人 自殺対策支援センターライフリンク**
情報デザイングループリーダー 鈴木洋平氏
- **一般社団法人
いのち支える自殺対策推進センター**
広報室長 山寺香氏
- **株式会社 官民連携事業研究所**
代表取締役 鷺見英利氏
- **株式会社 大広WEDO**
チームリーダー 谷本卓哉氏
- **日本放送協会 大阪放送局**
ディレクター 後藤怜亜氏

令和6年度の広報啓発活動

- **高校生を対象に、**悩みを持つ友人に対し、自分ができるサポートを考える**ワークショップ** (※)
- **保護者等を対象に、**こどもの心のサインを学ぶ**講演会** (※)
- **こどもから大人まで幅広い世代を対象に、**全国的な**インターネット調査**を用いた**メディア向けPR**

(※) 自殺対策に先進的に取り組んでいる長野県内で実施



各活動の検証結果を基に、有識者の助言を踏まえながら、今後のこどもの自殺対策に関する広報啓発活動の方針を検討し、次年度以降の施策へ反映。

こどもの自殺対策の推進に資する広報啓発活動

ワークショップ（令和7年1月17日）

- 高校1年生（34名）を対象に、深刻な悩みを持つ身近な友人に対して、自分ができるサポートを知り、寄り添う重要性を理解することを目的とした講義及びグループワークを長野日本大学高等学校で実施。
- グループワークでは、カードゲーム形式で悩みを相談する側と相談を受ける側に分かれ、高校生によくある悩みに対して、どのようなサポートをしてほしいか（してあげたいか）をそれぞれが考え、お互いに発表。
- 事後のアンケートでは、以下のような回答があった。
 - ✓ 1人1人を大切にして、悩んでいることを人に相談したり頼ったりしていただくことが大切だと思った。
 - ✓ 明るい人でも、何を考えているかわからない人でも、きっと1人1人に悩み事はあると思いました。自分にとって小さいことでも、相手にとってはとても重要なことかもしれないし、解決したいと強く考えるものだと思うから、相談されたときは全力で聞きたい。
 - ✓ あまり人の悩みの改善策などを考えることがなかったから、ためになった。
 - ✓ 悩みを言いやすくなった。カードゲームが楽しかった。



講演会（令和7年1月26日）

- 保護者等の日常的にこどもと接する機会が多い方を対象に、深刻な悩みを持つこどもの心のサインと、周囲の大人にとって望ましい行動や対応について学ぶ講演会「学ぼう心のサイン 守ろう10代の命」を長野県で実施（長野県内外から83名が参加）。
- こどもの自殺の現状やこどもを取り巻く深刻な悩み等に関する基調講演、深刻な悩みを持つこどもの気付き方や支援の方法等に関する意見交換、ケーススタディを行うパネルディスカッションにより構成。



調査PR（令和7年1～2月末）

- こども（15～18歳）及び大人（19～59歳）を対象に、こどもの自殺に関する認識や取組等の実態について、全国的なインターネット調査により把握。

※ 上記の広報施策についてメディアに周知し、取材を誘致。各広報施策のメディア露出獲得を図り、効果検証につなげる。

令和7年度予算案 60百万円（61百万円）

事業の目的

- 近年、小中高生の自殺者数が増えており、令和5年の小中高生の自殺者数は513人と、過去最多を記録した令和4年（514人）と同程度の水準となっている。特に、中高生の自殺者数は令和2年頃に増加し、高止まりしている。
- 令和5年から「こどもの自殺対策に関する関係省庁連絡会議」（議長：こども政策担当大臣）を開催し、こどもの自殺対策の強化に関する施策を「こどもの自殺対策緊急強化プラン」としてとりまとめ、関係省庁一丸となって総合的な施策を推進している。
- 本事業では、本プランに基づき、こどもの自殺対策の推進に向けた要因分析及び広報啓発活動を実施し、こどもの自殺対策の強化を図り、こどもが自ら命を絶つようなことのない社会の実現に寄与する。

事業の概要

① こどもの自殺の要因分析（こども政策推進事業費補助金）

- 令和6年度に実施した多角的な要因分析（※）の結果を踏まえ、引き続き、こどもの自殺の実態解明に取り組むとともに、分析に当たっての課題把握に取り組む。
（※）警察や消防、学校や教育委員会、地方自治体等が保有する自殺に関する統計及びその関連資料を用いた多角的な要因分析を行うための調査研究を実施する予定



② こどもの自殺対策の推進に資する広報啓発活動（こども政策推進事業委託費）

- 中学生や高校生を対象に、自殺予防・自殺対策について、訴求力のあるデジタルコンテンツの作成・発信等を行い、関係省庁と連携した広報啓発活動に取り組む。



実施主体等

【実施主体】民間団体 【補助率】10/10

こどもの声（「こども若者★いけんぶらす」等で出された意見）



寄り添ってほしくて相談するのだが、**返ってくる言葉は解決しようとする言葉で、寄り添ってくれない**

「悩んでいることがあったら相談できる」というのがこどもにもっとわかりやすく伝わるとよい

学校で相談窓口のことを紙で配られたただだと、**何をどう話していいかわからない**

学校のアンケート結果が親に伝わるのが怖くて、回答を変更するしかなかった
親のこととか気にせずに、安心して相談できることが大事

SNSによる相談は電話相談よりハードルは下がるが、電話の方が相談しやすい人もいる
色々な相談窓口があることが大事



こども目線の課題例

- 利用できる相談窓口について、こどもに十分周知できていない？
- どう相談すればよいか分からないなど、相談窓口の利用にハードルを感じている？
- こどもがどう感じているか、相談を受け止める側が十分に把握していない可能性？
- 相談窓口は、SNSに加え、電話、対面も含めた多様な窓口があることが望ましい？

等

こども家庭庁「こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチーム」発足（令和6年11月26日）

1. 設立の趣旨

「こどもまんなか社会」の実現を目指し、**大人目線ではなくこども目線で、悩みを抱えるこどもたちが躊躇なく悩みを打ち明けられる環境を作っていくため**、こども家庭庁に「**こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチーム**」を設置し、次の取組を進める

- ① **こどもや支援団体等との積極的な意見交換**
- ② こどもに関する**官民の相談窓口の実態や相談を受け止める側が留意すべき点の把握**
- ③ こどもの悩みを受け止めるために**有益な諸活動について、積極的・効果的な広報** 等
(※ こどもの悩みを受け止める場の実態把握・広報事業（令和6年度補正予算案 1億円（新規））)

2. 構成員

入庁1年目の若手職員や、民間企業・自治体からの出向者などの現場経験者等をはじめ、多様なバックグラウンドを持つこども家庭庁職員が参加（計31名）



▲ プロジェクトチーム発足式で若手職員らと意見交換する三原こども政策担当大臣

- 令和6年の小中高生の自殺者数の暫定値が527人と過去最多となったことから、三原こども政策担当大臣からこども・若者の皆さんに向けて、緊急メッセージを発信。

(メッセージ全文)

こども・若者の皆さん、こんにちは。こども政策担当大臣の三原じゅん子です。

皆さん、自分のこと、友人や恋人のこと、そして、家族のこと。何かに悩んだり、不安を感じたりしていませんか。

色んなことに悩み、不安になること、これは決して悪いことではありません。つらい気持ちでいっぱいになり、どうしていいかわからなくなって、時に消えたいと思うことも、あるんだよね。そうした気持ちも、また、あなたの大切な気持ちです。

誰にも相談できなくて、眠れなかったり、ご飯が食べられなくなったりしていませんか。それは、あなたのこころのSOSかもしれません。

私たちは、あなたの思いや気持ちを大切にしたい。そして、少しでも受け止めたいと思っています。

つらい気持ちになったとき、「身体を動かす」、「深呼吸する」など、あなたの気持ちが少しでもほっとする方法に、「ちょっと人に自分のことを話してみる」。試してみてください。

でも、勇気がいりますよね。自分のことを話すのは。。。それでも、話してみると、少しだけほっとできることもあるかもしれません。

あなたの思いを大切にしながら、「世の中には信頼できる大人がいる」と思ってもらえる社会を、私たちはあなたと一緒に作りたいと思っています。

不安や悩みの背景には、あなた自身だけではなく、社会が抱える問題もあります。あなただけが不安や悩みを一人で背負わなくてもいいよう、そして、迷うことなく不安や悩みを打ち明けられるよう、私も一緒に考えていきます。

皆さんの声をしっかりと受け止め、皆さんの声を大切にできる社会をつくっていきます。



▼こども家庭庁X



▼こども家庭庁YouTube

